# 審議会等の会議結果報告

| | |
|---|---|
| １．会　　議　　名 | 平成２８年度　第２回松坂城跡整備検討委員会 |
| ２．開 催 日 時 | 平成２８年１０月１７日（月）<br>午後２時００分から午後４時３０分 |
| ３．開 催 場 所 | 第一公民館２階　会議室 |
| ４．出 席 者 氏 名 | 別紙のとおり |
| ５．公開及び非公開 | 公開 |
| ６．傍 聴 者 数 | １名 |
| ７．担　　当 | 松阪市殿町１３１５番地３<br>松阪市教育委員会文化課<br>担当者　：　寺嶋<br>電 話　０５９８－５３－４３９３<br>ＦＡＸ　０５９８－２５－０１３３<br>e-mail bun.div@city.matsusaka.mie.jp |

報告事項

（１）前回の協議内容の確認について

（２）平成 28 年度の樹木伐採について

協議事項

（１）石垣保存修理の計画について

議事録要約

別紙

平成 28 年度　第 2 回松坂城跡整備検討委員会　議事録

日時：10 月 17 日（月）14：00～16：30

場所：第一公民館 2 階会議室

参加者：

| 区　分 | 氏　名 | 所属等 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 委 員 長 | 千田　嘉博 | 奈良大学文学部教授 | 城郭史 |
| 副委員長 | 門　暉代司 | 松阪市文化財保護審議会副会長 | 文献史 |
| 委　　員 | 内田　和伸 | 奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室長 | 史跡整備 |

| 区　分 | 所属等 | 氏　名 |
|---|---|---|
| オブザーバー | 三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 | 竹田　憲治 |
| | 〃 | 新名　強 |
| | 三重県埋蔵文化財センター所長 | 野原　宏司 |
| | 松坂城跡を守る会会長 | 庄司　博俊 |
| | 蒲生氏郷公顕彰会会長 | 髙島　信彦 |

| 区　分 | 所属等 | 役　職 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 関係部局 | 松阪市都市整備部土木課 | 課長兼総合運動公園管理事務所長事務取扱 | 伊藤　篤 |
| | 〃　　〃 | | 宇田　寛之 |
| | 〃　　都市計画課 | 公園係長 | 長谷川　浩司 |
| | 〃　　〃 | 課長 | 山本　誠 |
| | | 景観推進室長 | |

| 区　分 | 所属等 | 役　職 | 氏　名 |
|---|---|---|---|
| 事 務 局 | 松阪市教育委員会事務局 | 教育長 | 東　博武 |
| | 〃 | 局長 | 松名瀬　弘己 |
| | 〃　　文化課 | 文化資源活用担当参事兼文化課長 | 村林　篤 |
| | 〃　　〃 | 文化財担当主幹 | 松葉　和也 |
| | 〃　　〃 | 文化財係長 | 新田　和弘 |
| | 〃　　〃 | 文化財係主任 | 寺嶋　昭洋 |
| | 〃　　〃 | 文化財係 | 中西　士典 |
| | 〃　　〃 | 文化財係 | 髙橋　千穂 |

# 平成 27 年度　第２回　松坂城跡整備検討委員会

# 議事録まとめ

**報告事項（２）平成 28 年度の樹木の伐採について-資料２**

○委員：今回示された①と②は今年度早急にやらなければならないもので、来年度はまた別の場所を考えているのか。それともここ数年間で、全体でやらなければいけないものがこの資料なのか。全体との関わりがどうなっているのか。

→事務局：①②のエリアから伐採を開始していきたいという事。今後、樹木の伐採を継続していきたいと考えている。①②について、今年度始めていきたいと思っているが、全てが切れるかどうかはまだわからない。このエリアのものを全て今年度中に切るという訳ではない。

○市民代表：伐採という言葉を使っておられるが、伐採というのは切るだけなのか。ただ切るだけでは根が残っているが、どのように理解したら良いのか。

→委員：伐採と言えば根元から切るのが普通のやり方。切った後、根は残っているが、それを掘り返してしまうと遺跡の保存上良くないので、地面すれすれで切って、やがて腐るのを待つ、というのが通常のやり方。

→市民代表：市民に情報公開をした場合、先々このようになりますよ、という説明も必要かと思う。

○委員長：松坂城の天守台の石垣はかなり古く、氏郷の時代に遡る城内でも一番古い石垣ではないかと思うが、今はその良い石垣が樹木に隠れてしまっている。あの木が直ぐに石垣に悪さをするというのではないが、松坂城の石垣の魅力を見ていただくことを考えれば、天守台の石垣が早く見られるようになったら良いと思う。まず石垣に直接悪い影響を与えるところから、というのは適切なご判断だと思うが、どのようなところの木をコントロールするかというのは、完成時だけでなく、その過程でも松坂城をどう見せていくかという事を意識しながら、具体的に検討すべき所もあるかと思う。

○市民代表：今回の伐採について、木の生長を止めて枝を払うということはあり得るのか。全て伐採することが基本なのか。危険であるとか、将来危険になるという木は全て伐採しても良いと思うが、このエリアを何もかも全て切って、何も無くなってしまったら市民に怒られるのではないかと思う。

→委員：伐採の中では木の生長を止めて枝を払う事も考えられる。

→事務局：実際全てを切ってしまわなければならない場所も出てくるかもしれないが、どのような目的で切るかによって種類分けしていきたい。石垣を崩落させる恐

れのあるような樹木は切っていきたいし、倒れて地下遺構をごそっと起こしてしまうようなことがあっても困る。ただ、来訪者の方に枝が落ちてくるとかであれば、伐採ではなく、その枝を剪定していくとか、切り下げていくとか、眺望上問題のある木についてもそのような対応が出来るかと思う。

○市民代表：②の箇所は、伐採する木とは別に、石垣にツタが這っていて、石垣が見えないくらいだが、あれはどうなるのか。
→委員長：本当は石垣の後ろにはグリ石という排水の為、あるいは揺れを緩和する層があり、本来草が生えられるような土は無いのだが、石垣が傷んできくると段々裏込の中に土が入ってきて、そこに植物の根が入って生きられるようになってしまう。ツタが生えているということは、石垣がある程度傷んできているということになる。

○市民代表:下の方の雑草は背丈ほども伸びているが、グラウンドの雑草になるのか。
→委員長：史跡内であればこちらで何か考えないといけない。
→事務局：石垣のツタと、雑草の件も、関係部署と調整させていただきながら、相談しながら進めていく。

○委員長：今は切ることの話をしているが、歴史的な樹木に戻していくというような事も考えていく必要がある。松坂城でやるかどうかは別だが、お城では石垣からの転落防止を図るために手摺りではなくて植栽によって転落防止を図るようなところもある。全体の整備の計画の中ではどういうものを植えていくかという事も検討していくことになると思う。
→委員:グラウンド沿いの杉が列植されているところは、もともと杉が植わっていた、ということは無いか。後から植えられたにしても、古写真等に写っているという事もないか。古写真でこのあたりに杉が植わっていて、後の時代にも杉を植えてしまったという事だと、話が少しややこしくなる。
→事務局：そこまでは確認出来ていない。
→コンサル：絵図等によるとほとんど緑の無い場所で、今回の調査でも樹齢が 100 年を超える木は大手門の松位だと思う。
→委員　：杉が植えられた時期は私の記憶にある頃で、四十数年前のこと。

○委員：これらの木を切ることについての市民への周知の方法は、今どうされているのか。
→事務局：事務局の中でもう少し具体的な内容が固まった時点で、ＨＰ等で、このエリアの木を切ることから始めますとか、どういう意味合いを持ってこの木を切ります、ということを、なるべく分かりやすい表現でお伝え出来る方法を検討していきたい。ＨＰでは見られるようにしなければと思っている。

→委員長：市民の方がある日気づいたら木が無くなっていたということにならないように、十分に周知を図り、ご理解をいただいて進めていただきたい。

○市民代表：何がどこにあるのか、発掘調査を早くしてもらいたいが、予算の問題があるのか。

→委員長：もちろん予算の問題もあるが、発掘調査をするためには、石垣が無いところの木も切らねばならないという問題も起こってくるし、ここは国の史跡なので保存していくことが大前提で、どのように整備・活用していくかという計画無しにただ発掘すればよいというものでもない。そのあたりは整備の基本計画に則って、補助金をいただくのであれば県にもご協力いただいて、ということになる。

**協議事項（１）石垣保存修理の計画について-資料３**

<u>石垣 308・309</u>

○委員：308・309 というのは非常に危険だと思うが、市の木が松なので、切ってしまうのであれば、市民への周知をきちんとやっていかないといけない。

○県教委：解体して修理する時に、松の木と共存していくような考え方は難しいか。

→コンサル：あまりにも大きいので、移植はまず不可能。石垣や地下遺構に影響を与えないところに後継木を植える、という手はあると思う。

→県教委：虎口の所なので、反対側の石垣が近い。だから、何かあった時に逃げる場所が無い。

○委員：308・309 をやるとなれば、309 の右側、石垣調査報告書では P30 に明治の写真が載っているので、こういう石垣が復元出来るといいなと思う。

→委員長：城の正面が復元されれば、城の様相はずいぶん変わってくる。

○県教委：修理という形にしていくのか、復元とか整備という形にしていくのかは議論しておく必要がある。305・306 の角は本来四角かったのだが角を落としている。

→委員長：前の方の石垣を元に戻すと、車が通りにくいとか色々別の問題が出てくるかもしれない。

→委員：車をここから上げてはいなかった。工事車両の為に土嚢を置いていたので石垣の工事をやる場合には御城番側からしか出入り出来なかった。石垣の修理の時に、石垣の間に土嚢を入れて、上をアスファルト舗装にして、それがそのままになってしまった。だから下からはちゃんとした石段が出てくるはず。

→委員長：石垣を直した時に、前の道が異様に上がっているというのは確かに不自然な状況。

→委員　：工事以前の写真というのが、松阪市に残っていると思う。

→委員長：まだ石垣の修理等が当面続くことを考えると、工事用車両が入れる場所はなるべく残しておきたいという気もするので、今すぐに道を元に戻すのが良いかどうかはわからない。ただ路面が上がったままで 308 や 309 の石垣の修理に影響は無いのか。解体修理の際は外して、また道が必要になればもう一回仮設路で復旧するのか。地下の状況がどうなっているかという発掘はまだやっていないので、来年実施計画を立てるにあたっては、発掘で事前に地下状況も掴んだ上で計画を立てるということになる。

○事務局：石垣の修理や復旧について、一番下の方まで解体をしなければならないのか、半解体という方法もあるので、そのへんも現地でご確認いただきたい。園路部分を実際に発掘調査しようとすると、クリアしなければならない課題があって、直ぐに着手するのは難しい状況。例えば水路は今かなりきちんと機能しており、発掘するとなれば、その間どのような処理をするのか、調査が終わった後どのように復旧させるのか、今は妙案が見つかっていない。

→コンサル：文化庁としてはよほど転んでいない限り根石は触るなということになっている。根石周辺のトレンチが必要かどうかということを含めて協議は必要だと思う。

→委員長：308・309 の石垣については目視では木の影響と考えられるが、それだけではなく地盤からとか別の要因で石垣がずれてきているのではないか、という事であれば根石の確認も必要にはなってくると思う。308・309 については今のところ､解体もやむを得ないのではないか。

<u>227・228</u>

○委員長：227・228 については記念館への重要なアプローチになっており、石垣が崩れる事は大きく人命等にも関わる重要なところなので、経過観察をしっかりする必要がある。

<u>302</u>

○県教委：実例としてネットフェンスを作ったというところは、史跡のなかでいくつかあるのか。

→コンサル：高知城、備中松山城、今やっているのが島根県の富田城。京都の二条城も櫓門のところでやるという話がある。

→委員長：奈良県だと高取城。

→委員：小田原の石垣山。

○委員：ネットフェンスは山の中の城であれば気にはならないが、道に面したような所ではちょっと違和感があるような気はする。一度他事例の写真等を集めて、遠目とディテールも含めてご呈示いただかないと、判断はつかないと思う。

○事務局：例えば 302 の石垣に対してもだが、こういうデータを取ったらいいとか、

こんな作業をするといいという事は何かあるか。

→コンサル：モニタリングはやった方がいいのではないか。一番単純なことはガラス棒を入れる事で、それが割れるか割れないかで石垣が移動しているかどうかが分かる。

→委員長：設置したガラス棒というか、プレパラートのようなものがバリバリ割れてしまうくらい石垣が動いているのならば優先的にとにかく修理をしなければならないということになる。まずはモニタリングが必要で、危なそうに見えても安定して動いていない、という事も無いわけではないので、何年か観測した方がいい。

→委員長：302 の石垣はだいぶツタも絡まっていて、石の状況もぱっと見ただけではわからないような状況だが、石垣が見えていないと定点観測も出来ない。

○委員長：302 については、実際にネットをかけた事例がどのようになっているかというのを委員会でも検討させていただきたい。ここはお城の正面でもあり、今現在どのくらい石垣の変形が進んでいるのかということもしっかり掴んだ上で、オルソ画像のような三次元的な変動が分かるようなことをしながら修理の方法、あるいは時期について検討していくということになるのではないか。

**○石垣変形の原因把握**

県教委：恐らく切り土のところの法面に石垣を作っているところは、孕んだり傷んだりしてくることは少なくて､盛り土のところの石垣の傷みが激しいと思うので、後ろの土がどうなっているのかというのを、なんらかの方法で見ておく必要があるかと思う。

委員長：石垣自身の積み方が稚拙であるとか、もともと谷のようなところを埋め立てたからとか、地盤そのものが非常に軟弱で基礎に難ありとか、石垣が変形していく理由や原因は様々なので、どうしてこの石垣が変形してきているのかという理由を的確にあらかじめ掴むことが出来ていれば、どう修理すればいいかも的確にわかる。石垣修理のデータになるようなボーリングをやるならば、かなり意図的に入れていかないといけない。従来の年次計画には計画的に城内の切り土盛り土の状況がわかる情報を集めていこうということは入っていなかったように思うが、今後石垣の修理をしていくことを考えると、情報は得ておいた方がいい。直した石垣が、直ぐにまたずれてきて直さなければいけないということは避けるべきなので、事務局の方でもご検討いただければと思う。

**○修理の時期**

委員：石垣修理の計画として、いつの時点の石垣を目指すのか。

委員長：創建期ではなく、幕末ですね。

県教委：江戸時代末の石垣の姿にしようということをちゃんと位置づけてあるのか。

コンサル：はっきりどの時代とは書いていないのですが、P73 の 4-1（1）の下から４行目あたりにちらっと触れているのですが。

委員長：確かにいつの時点の石垣を目指すのかは改めて明確にしておくべき。天守台の石垣の一部も将来的には修理を検討しているが、天守台はどう見てもかなり古い時代、氏郷の創建期に遡る石垣の様相があると思うので、それを幕末に直すというのは誠に奇妙なことになり、石材自身が自然石で積み方も異なっている。一義的にある時期に戻すというのではなくて、「原則としては絵図等の残る幕末の状況に戻すが、明らかにより古い時期のものや創建期に遡るものについてはその特色を残し、特徴を生かした石垣に修理する」ということになるのではないか。松坂城は段々外に行くに従って石垣が新しくなっていくような特色があるように思うので、改めて原則を明確にしておいた方がいい。

委員：逆に近代に修理した石垣も今はね除けてしまう訳にはいかないような状況も多分に出てくると思うので、原則を示しながらも、状況に応じて判断出来るような書きぶりが必要だろう。

委員長：まずは委員ご指摘のように大原則を決めておかないと、その場で決めることになって、将来的にはまずいことになってしまうことが予想される。修理の時の石材選びや、どのくらいの加工の石で直していくのかとか、かなり細かい事にも関わってくることなので、まずは次の会議に向けて事務局に原案を考えていただき、また委員会で議論させていただくことにしたい。